



かきぬいひがし通信

～仲間とともに伸びる子 主体的に学ぶ子 いのち・人権を大切にする子～

<今月の巻頭言>

校長 松宮 孝明

「いただきますすのない給食？」

あけましておめでとうございます。本年も、笠縫東の子どもたちやご家族、学区の皆様全員に幸多かれと祈ります。令和2年度としては、まだあと3ヶ月あります。コロナ禍にあっても、しっかり締めくくれるよう、最大限の努力をします。何とぞご理解とご協力・ご支援をよろしくお願いします。

さて、新年早々ですが、新聞に投稿されたこんな記事を紹介します。

ある学校の給食の始まりの時間に居合わせたら、ピーと笛の合図で、全員が食べ始めたというのです。太鼓のドンの合図の学級もあるとのこと。

え！「いただきます」と言わないの？ と思って尋ねたら、給食費を支払うことをもとに、ある保護者から「お金を払っているのにいただきますと言うのはおかしい。」とクレームがあったためだということでした。

こんな意見がまかり通るのでしょうか。こんな意見を言う保護者もおかしいし、このクレームに簡単に応じた学校の対応もおかしいと思いました ということ。

考えさせられました。じっくり考えた後、笠縫東小学校が、教職員一丸となって子どもたちの成長を支え、保護者や地域の皆様が、その取組を理解し応援してくださっている状態であること、これはあたり前ではないんだ、感謝しなければならないことなんだと、改めて感じました。

この投稿をされた方は、こう続けておられます。

「食前のいただきます、食後のごちそうさまは、食事がいただけることに対する感謝である。お金を払ったかどうかは関係なく、言うのは当然だと思う。お米は田おこしに始まり、苗代づくり、草取り、稲刈り、脱穀など、何ヶ月もの長い月日と工程を経ていただけると私は教わってきた。お膳にある食材のすべても同様に手間がかかっており、命があり、そのすべての恵みに感謝しての言葉のはずではないだろうか。」

どう感じられましたか？ また、いろいろな機会に、学区全体で考えていきたいものです。

3学期初めの子どもたちの様子



1年生
始業式の話をお各教室で静かに聞けました。



2年生
3学期のめあてをきれいに色を塗ったりして仕上げました。



3年生
しっかり覚えて、百人一首を楽しんでいました。



4年生
みんなで話し合っ係活動を決めていました。



5年生
輪になって、今年の目標を発表していました。



6年生 班で話し合っ、「言う」「思っ」「書く」だけでなく、気持ちを伝え行動に移そうと発表していました。

笠縫東小：こころの教育コーナー

見方を変えれば、世界が変わる

「ものごとの見方は、自分が変えたいと思えば、変えられる！」

アドラーは、ものの見方や考え方、態度のことをライフスタイルと言っているんだ。これは幼いときに形作られるものなんだけど、もしきみがこういう考え方をやめたい、変えたいと思ったらいつでも変えられるんだよ。たとえば、学校で友だちとけんかをしたとき、相手が悪いからけんかになったと思ったとしよう。これは、君の考え方だね。でも、まわりの友だちは、両方とも悪いという考え方だったとする。それを知って、もしきみがまわりの友だちの考え方の方が正しいかなと思ったら、君の考え方を変えていいんだよ。正しいと思ったらそうする。まちがっていると思ったら、やめる。ものの見方や考え方が変わると、きみに起こることも変わる。考え方をいい方向に変えれば、現実もいい方向に変わるものなんだ。

(「超訳 こどもアドラーの言葉」 齋藤 孝 著より)